

各市町で成人式

「一生に一回開かれて良かった」

成人の日を前に、県内では十日、各市町で成人式が開かれた。県によると、県内の今年の新成人は二万五千二百八十四人で、前年より二百六十六人少ない。新型コロナウイルスの「第三波」を受け、長浜市や甲良町では式典を延期。予定通り開催した所も、感染対策に気を配りながらの晴れの日となった。大津市などでは十一日に予定している。

東近江

うしなうな希望
勢いよく風揚げ

東近江市聖徳中学校のグラウンドでは、新成人が制作した二十畳大（縦五段、横四・八段）の大凧が青空に舞った。



新成人の大凧揚げは恒例となっている。昨年十一月から一カ月ほどかけ、成人式実行委員の二十二人を中心に制作。干支にちなみ二頭の牛を描き、新型コロナ禍でも希望を「失(ウシ)」なわなないように「うしなうな希望」と読ませるデザインにした。新成人六十人がスーツに革靴でグラウンドを走り、勢いよく綱を引くと、三回目の挑戦で高々と上がった。

実行委員長の市川伊吹さん(〇)は「今の世の中にびつたりのメッセージが、皆さんの人たちに伝わったらうれしい。思いやりのある大人になりたい」と気持ちを新たにしました。

(稲垣遥謹)

大凧を揚げる新成人たち
東近江市聖徳中



岩永市長の式辞を聞く振り袖姿の新成人＝甲賀市水口町のあいこが市民ホールで

甲賀

式辞や誓いの言葉
各会場に映像配信

甲賀市は、同市水口町のあいこが市民ホールを主会場に、市内の計六会場に分散して式典を開いた。岩永裕貴市長の式辞や新成人の誓いの言葉など、主会場の映像をオンラインで各会場に配信した。

誓いの言葉では、代表の山内一輝さん(〇)と正木克拓さん(〇)が、コロナ禍で

米原

「仲間と日々成長」
新成人の生演奏も

米原市長岡の市民交流プラザでの式典には、計三百

の生活を例に挙げ「自分本位でなく他人本位の精神を持つことは、多くの人を支援していくことが求められる新成人にとって、忘れてはいけないこと」と述べた。市内の新成人は九百五十七人。このうち主会場には二百八人が集まった。愛知教育大二年の榎原寛太さん(〇)は「愛知県内の大学の友人は、式典の延期や中止が多い。一生に一回なので、開かれて良かった」と話した。

(島将之)



ピアノ演奏を披露する武田さん＝米原市長岡の市民交流プラザで

五十六人が出席した。新型コロナウイルスの感染防止のため二部制で実施し、第二部の冒頭では、新成人の武田未々さん(〇)がピアノで人気歌

手Superflyの「愛を込めて花束を」を演奏した。

新成人を代表し、稲田好哉さん(〇)は「友人と切磋琢磨したことが、これからも私たちが勇気づけてくれる」と話し、古野あすかさん(〇)は「地元の仲間と日々成長していきたい」と述べた。平尾道雄市長は「失敗を恐れず、信じた道を進んでほしい」とあいさつした。中学時代の写真を集めたスライド上映もあった。

(川添智史)